

◎今週の御言葉「神は救いを得るようにお定めになった」（イザヤ書51章4節～11節、テサロニケ人への手紙第一5章1節～11節） 「主に贖われた者たちは帰って来る。彼らは喜び歌いながらシオンにはいり、その頭にはとこしえの喜びをいただく。楽しみと喜びがついて来、悲しみと嘆きとは逃げ去る。」（51:11） 「神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。」（5:9）

◎私たちは「目先のことに囚われ、孤軍奮闘」している状況の中、救われた前後のことを見失してしまい易い。もう一度どの様の所から救われて現在に至っているか、考えたい。

◎イザヤ書51章。①「切り出された岩、掘り出された穴を見よ」（1）。イスラエルにはアブラハムとサラのことを考えよとの招きであり、私達には「信仰の原点に帰れ」との招きです。②「主はシオンを慰め、そのすべての廃墟をエデンの園のようにし、その砂漠を主の園のようにする」（2）。天地万物の創造者なる神様が、どんな状況からでも回復し、繁栄をもたらすとの約束です。③「主の贖われた者は帰ってくる」（11）。エジプトよりイスラエルの民を解放された神様はバビロン捕囚からも解放されるとの預言です。④「わたしの義は近い。わたしの救いはすでに出ている」（5）。神様の御業は、救いを待ち望んでいる者に「救い」となるが、背く者には「裁き」なのです。神様は主イエス様を救い主としてこの世に遣わされました。主イエス・キリスト様を信じる者は救いに与るが、信じない者は滅びに至るのです。心して祈りましょう。

◎テサロニケ人への手紙第一5章を通してパウロは、キリストの再臨は「いつ、どの時か」（1）との関心に応えていました。「主の日」（再臨とさばきを含む終末の時）は主イエス様が語られた通り「夜中の盗人のようにくる」のです（2、マタイ24:42, 43）。信者はいつも備えが必要なのです。

「暗闇にいる」と「妊婦に産みの苦しみ」が突然に臨むように、そのさばきから逃れることは「決してできない」のです。キリスト者は「光の子ども」「昼の子ども」です（ヨハネ12:36、エペソ5:8）。私たちはキリスト様の贖いの完成により「永遠の命を受け」「キリストと共に生きる」者とされているのです。目を覚まして主の降誕と再臨の主を迎える備えをしましょう。それと共にひとりでも多くの方々の救いのために祈り仕えましょう。